

白沙村（白沙古鎮）①

白沙村は麗江から北約 10km 行った所にある古鎮である。東河よりさらに玉龍雪山に近くなる。



納西（ナシ）族が最初に住み着いた村と言われている。南詔国の時代に北の境が玉龍雪山とされ、北の守りとして木氏一族が開いた村と言われている。明清の時代まで麗江よりここがこの地域の中心だったとされている。

明の洪武 15 年（1383 年）ナシ族の族長である阿申阿得が明に服属して洪武帝（朱元璋）から木姓を賜り、土司（地方民族の族長）に任命された

と歴史にある。

その昔、馬の背に茶葉を乗せた隊商が歩いた街道の向うには玉龍雪山が見えている。この村も麗江世界遺産の中に組み入れられているが、まだ此処まで足を伸ばす観光客は少ない様だ。開いている店も少なく、歩いている人も地元の人たちである。



現在、どれ位の人が住んでいるかは中国で発行された「茶馬古道」の案内書にも記載されていないので、不明であるが、小さな村であるのは確かである。少し歩いただけでもう村外れになる。

雪山に緑の並木、白壁の家、屋根の先端の鳥瓦が鬼瓦になっていけば日本にもありそうな景色である。この辺は新しい所なのだろう。道路も古街の石畳でなく舗装されているし、住居も新しい造りになっていた。

玉龍雪山

白沙村はこの雪山の麓にある。ここから先には村らしい建物が見られない。地図を見ると街道はこの



山の西側（写真の左側）を通っている。そして長江第一湾の東側を行き、虎跳峡から西双版納（シーサンパンナ）へと通じている。

玉龍雪山の標高は 5,596m とある。

近くで見ると氷河らしい所もはっきりと見える。この山の水が麓に広がる麗江を含むこの地域を潤しているのだ。地元の人たちが神と崇めているのも頷ける。良い山容をしている。



この村には高い建物がないので、色んな場所から山が見える。左は屋根の麓越に見た玉龍雪山である。昼食を食べたレストランの中庭（右）に二階に上がる外階段があったので、それを上って二階の目線から撮ったものである。

納西族の住居



ナシ族の古民家が良く残されていると案内にあったので、路地裏を散策した。白族の民家に似ている。青い瓦に白壁が特徴と資料にあるが、瓦は年代を経たのかどす黒い。白壁も剥がれてしまっているところが多い。

道に何も置かれていないし、表示もみられない。ひっそりとした田舎町の風情があって、好ましい。ただ人一人通っていない。



全体が壁に囲まれているので、中の様子は判らない。おそらくは中庭が広い四合院形式だろう。



面白いものを見つけた。屋根から木片がぶら下がっている。ガイドに聞くと魔除けの魚ということだ。これだけでは飾る意味が不明なので帰って来てから調べてみた。

これは二匹の魚を象った木彫りの板で

「懸魚」、或は「木魚」と呼ばれている。

「魚(ユー)」と「余(ユー)」の発音が同じことから、「何事も余るほど豊かになる様にとの願いなのだそうだ。

また魚は水の中に住んでいることから、防火の意味もあると解説している記事もあった。



これは写真を見てから知ったことだが、前頁の麓越しに玉龍雪山を見た写真にも写っていた。納西族の習慣の一つだろう。春節に飾ったものだろう。門の前に赤い二匹の魚の飾りを下げている家があった。